

ソーラー式充電スタンド「シティチャージ」 幕張メッセに設置を

12月定例県議会 一般質問

西田議員 東京オリンピック・パラリンピックの競技会場を持つ本県の取り組みのうち、シティチャージの導入についてうかがう。シティチャージとは、太陽光パネルからの電気でスマートフォンなどの充電が手軽にできるソーラー式の充電スタンド。スタンドにはコンセントやUSBポート(差込口)があり、利用者はそのスタンドに行けば無料で充電ができる。日本でも東京タワー、虎ノ門ヒルズ、としまえんの3カ所に設置されている。

スマホなどを無料充電

そこでうかがうが、東京五輪千葉県会場の幕張メッセで「シティチャージ」の設置の考えはないか。

商工労働部長 年間500万人以上が訪れる大規模集客施設であります幕張メッセにおきまして、来場者の利便性向上を図る取り組みを充実させていくことは、重要と考えております。

太陽光パネルと蓄電池の組み合わせで、スマートフォンなどの充電が可能な「シティチャージ」は、再生可能エネルギーの導入拡大に向



登壇し、一般質問を行う西田三十五県議

佐倉市選出の西田三十五県議(4期)は、確固とした信念をもって、明日の千葉県づくりにまい進しています。12月県議会では一般質問に立ち、東京オリンピック・パラリンピックの競技会場を持つ千葉県としての取り組みを県に質しました。また、県立学校の老朽化が懸念されているとして、学校施設の長寿命化や更新をどう進めるのかを県教育長に質問しました。西田県議の質疑と県、県教育委員会の答弁を特集します。

前倒ししてでも改修必要

幕張メッセ

西田議員 幕張メッセが東京五輪会場として決定し、開催まであと4年半という時期を考えれば、前倒しをしてでも改修すべきと思うがどうか。

知事 昨年度実施した調査は、今後15年間で大規模に改修を行う必要がある施設や設備について、イベントの開催を考慮しつつ、工法や工程の検討、概算事業費の算出を行ったものでございます。

要望

西田議員 先ほどの答弁で、メッセでは導入の可能性について検討をしていただけたことと、ぜひ前向きに検討をお願いする。

東京都ではスマートエネ

けた東京都のモデル事業として、平成27年10月以降、都内3カ所で設置されたところでございます。

「シティチャージ」は、災害時にも利用可能である一方で、一度に充電できる人数が限られていることから、幕張メッセへの設置につきましては、東京都でのモデル事業の検証結果等も踏まえ、その必要性について検討してまいります。

わが県では、例えば成田空港とか、成田山、佐倉の歴史民俗博物館など、たくさん外国人が訪れる場所がある。「シティチャージ」だけ取り出して設置を進めることは、政策的になかなか難しいことと承知しているが、再生可能エネルギー導入の一環として、ぜひとも取り組み、地元企業に対して補助金等をぜひとも出して、民間が「シティチャージ」を設置してもらえようように要望する。

西田三十五県議プロフィール

○経歴○

- 昭和39年10月 佐倉市生まれ
- 昭和63年3月 拓殖大学政経学部卒
- 平成3年4月 佐倉市議会初当選(3期連続当選)
- 平成15年4月 文教福祉常任委員会委員長、経済環境常任委員会委員長、県議会議員初当選(4期連続当選)、文教常任委員会委員長(2回)

○現職○

- 県議会 千葉県議会議員定数等検討委員会委員長、商工労働企業常任委員会委員、拉致問題早期解決の支援に関する議員会幹事長、資源エネルギー問題懇話会監事
- 自民党県連 自由民主党議員会副会長、教育研究会議員連盟副会長、防衛問題対策議員連盟幹事長、介護問題対策議員連盟事務局長
- 政策集団 「夢の会」会長

市民の声を県政へ

県政や佐倉市での身近なご相談、ご要望をお寄せ下さい。

西田三十五 県議事務所

〒285-0837 佐倉市王子台6-1-8
TEL 043-489-2312 FAX 043-489-2401

県立学校の校舎、体育館

7割が建築後30年経過

西田議員 県立教育施設についてうかがう。「公共施設等総合管理計画」は庁舎や学校等のハコモノ施設のほか、道路、河川等の社会基盤施設など、すべての公共施設を対象に、施設の長寿命化と総量の縮減を図っていくとのことだ。

ここで私が懸念しているのは、県立学校。県立学校については、一般的に大規模な改修工事が必要とされる建築後30年を経過した校舎・体育館等の建物が、全体の7割に達している。

例えば、私の地元の佐倉高校の建物の多くは、昭和40年代の建築であることから、建築後40年を経過しており、最も古い普通教室棟は昭和35年建築で、建築後55年になる。

また、老朽化の進行に伴い、施設修繕に関する各学校からの要望も増加しており、すべての要望に対応できていないことも事実。

しかしながら、学校は県の将来を担う子どもたちの学習や生活の場であり、安全・安心な教育環境を提供する義務がある。そこでうかがうが、県教

育委員会では、学校施設の長寿命化や更新をどのように進めていくのか。

教育長 現在、学校を含めた県有施設の長寿命化等に係る基本方針を定める「公共施設等総合管理計画」の策定を主庁で進めており、引き続き、個別施設ごとの具体的な対応方針を示す「個別施設計画」を策定することとしています。



議場の自席で再質問をする西田三十五県議

中で、大規模改修や建替えにより対応するなど、施設の状態に応じて柔軟に対応してまいります。

西田議員 施設総量の縮減が、教育環境の低下につながるのではないかと。

教育長 学校施設については、既存施設の建替えや大規模改修を行う際に、将来の児童生徒数や学級数等の見通しを踏まえて、空き

教室など常時使用していないスペースを精査し、各学級単位での建物の集約化や転用により、施設総量の縮減に努めてまいります。

県教育委員会といたしましては、安全・安心な施設環境の確保や教育環境の質的向上に配慮しながら、施設整備を進めてまいります。

これまで、各施設とも地元の方々に親しまれてきた名称ですので、今後、利用者の年齢層、他県の実況、変更に伴う経費等を踏まえて、研究してまいりたいと考えております。

【少年自然の家】 【青年の家】 望ましい名称変更

西田議員 利用実態に合わせて、指定管理者切り替えの新年度に向け、「少年自然の家」と「青年の家」を、国立と同様に「青少年交流の家」のように名称を変更したら良いと思うがどうか。

教育長 県内には、現在、柏市、香取市、君津市に「少年自然の家」があり、また、東金市、鴨川市に「青年の家」があります。

各施設において、海・山・川など、それぞれ地域の特徴を活かした体験活動を通して、青少年の健全育成を図っており、子供から大人

印旛沼の沈下堤防 順次がさ上げ工事

西田議員 印旛沼や流入河川の治水安全度は、地域が「大雨でも安心できる」水準にあるのか。

県土整備部長 県では、当面の目標として、時間雨量50ミリメートル、24時間

中の排水機場は、広域な排水を担い、更に干拓地を守るため、高度な管理が必要なことから、県が管理しており、その費用は、施設規模が国庫補助事業の要件を満たさないため、県と土地改良区で負担しております。

現在、国営事業で整備を進めている排水機場は、引き続き県が管理してまいります。従来より大規模な施設となることから、新たに国庫補助事業の導入を図り、土地改良区の負担軽減に努めてまいります。

西田議員 国営事業で整備された排水施設の管理はどうするのか。

農林水産部長 現在稼働

国営印旛沼二期事業

整備中の排水機場 「国庫補助」導入を

土地改良区の負担軽減

西田議員 農林水産省が平成22年度から用水の安定供給、田畑などの湛水被害

の防止、あわせて施設の効率的な管理を目指し、農業水利施設の更新と再編を行

う「国営印旛沼二期事業」に着手し、今年で6年目になった。地元では一刻も早い

安定した用水供給や排水不良の改善を望んでいる。特に、国営事業で更新・再編される施設の中には、流域の排水を担う排水機場など公共性の高い施設も含まれており、地域防災の観点からも早期完了が望まれている。そこでうかがうが、国営事業の排水施設の整備状況はどうか。

農林水産部長 国営印旛沼二期事業で整備する施設のうち、排水機能を担う3機場については、平成25年度から宗吾北機場、26年度から吉高機場、今年度から